

集落支援だより



地域おこし協力隊、集落支援担当の渡辺です。

今までは現在行っている活動を回覧の集落支援だよりで紹介してきましたが、
今回からは広報紙で私たちが普段行っている集落支援の仕事内容について紹介していきます。



地域おこし協力隊 集落支援担当
1年目 渡辺 貴洋

◆集落支援ってどんな仕事

現在、町では集落支援員1名と集落支援担当の地域おこし協力隊2名が役場奥川支所を拠点に活動しています。

集落支援の活動内容は、町内で特に高齢化率の高い集落を訪問し、見守りや集落内の困りごとへの対応をすることです。

現在は、大舟沢、弥生、弥平四郎、荒木の4集落を月に数回訪問しています。年々高齢化が進み、人が少なくなっていく中で、集落機能の維持に向けて取り組んでいます。

◆大学生の力を活用

そのほか、奥川地区や各集落の行事のお手伝いもしています。

す。先輩の小林隊員は、集落機能維持のための仕組みづくりとして、各イベントに合わせて大学生の力を活用しています。奥川地区内の人足イベントや集落内の行事の手伝いを通し、集落と学生との交流の機会を増やしています。今年度も春夏の人足に加え、集落内の行事や調査に延べ100名もの学生が奥川を訪れています。

◆今月の活動内容

◎弥生集落への訪問

弥生集落では11月になると町外で暮らす息子さん、娘さんのところでの生活に移ります。11月6日が今年度最後の訪問になりました。私たちが何うと集落の方同士で集まり、楽しそうに話をしていました。「一人でいるよりこうして集まって楽しく話してる方がいい」と話してくれました。

集落の方が家を離れた後に改めて何うと、集落はどこか寂しげでした。集落があり、そこに生活している人がいることで成り立っているのだと改めて感じました。寒さ厳しい冬を越え、

来年の春にまたお会いするのが楽しみです。

◎福島大学との活動

福島大学の岩崎ゼミの学生9名が11月3日に開催された奥川地区のそばまつりと翌日の杉山集落の人足に参加しました。

奥川のそばまつりも年々高齢化や人手不足によって準備や運営が大変になってきています。そのような中で大学生が手伝いに来てくれてとても助かると地域の皆さんは言っていました。

参加した学生たちは、11月1日に完成したばかりの集落支援拠点施設にも宿泊しました。「へくさんぼ」の多さに驚きつつも、水回りを改修してきれいにしたことで快適に過ごせたと学



杉山集落で人足の体験をする福島大生

生たちが話してくれました。この拠点施設を今後も活用し奥川での集落支援活動に役立てていきます。

そして杉山集落では来年度から新しく始まるイベントに向けて道路の草刈りを行います。

今回参加した大学生は、全員が集落でのイベントやマラソン大会の手伝いなどを通して何度か奥川地区に来たことがあります。今後も継続的に大学生との交流の機会を作りたいと思います。

弥生集落を訪問し、話し合う岩橋集落支援員(手前右)と小林隊員

